

日銀の視点

ハイレベルなランナーでもある京都大の山中伸弥教授は、新型コロナウイルスへの対策は長いマラソンであり、しばらくは全力疾走に近い努力が必要で、その後の持久走への準備も大切としている。医学研究者としての情報発信だが、経済活動でのピンチとの付き合い方という面でも学ぶ点があると思われる。

まず、「しばらくは全力疾走に近い努力が必要」という点。感染症の拡大による経済

日銀水戸事務所長 鈴木 直行

への影響は、収束までの期間が長引くほど大きくなるとみられる。今後の影響を最小限に止めるためにも、今はとてもつらいが、感染収束に向けた力強い取り組みにより、収束までの期間を可能な限り短

か、最近では会議や学習でもオンラインの活用が広がっている。他方で、以前から提供されているインターネットバンキングは一段と活用する余地がありそうだ。このところ、全国的に金融機関の窓口が

ンスでは、金融機関の店舗は予約制の相談業務が主体となっていた。単純な比較はできないが、日本でも今後は、店舗は融資や資産運用などの相談業務が中心となり、その他の業務では、3密回避につな

シが、当県では一部店舗で導入されており、当地の先進性を感じた。もちろん、人手によるきめ細かなサービスが期待される店も少なくないと思われるが、こうした取り組みは人手不足への対応に加え、感染リスク削減の観点からも評価されるのではないかと

ピンチとの付き合い方

取引が一段と活用されるのではないかと

くすることが大事になる。次に「その後の持久走への準備も大切」という点。感染症収束後の経済活動の持久力向上につなげ得る取り組みについて少し考えたい。一つ目はオンライン化。買物のほ

なり混み合っているという。「3密」を避け、来店客と従業員の健康を守るためにも、振り込みや住所変更などオンラインでも可能な手続きは店頭に行かずに済ませたい。

二つ目の取り組みは無人化。生鮮食品などはやはり店舗で購入するニーズがある。この点、昨年出張した英国ではスーパーのレジの無人化が進んでいた。都内ではほとんど見掛けなかった無人レ

折れることも少なくない。そんなとき、近所の田んぼ一面に水が張られ、太陽に照らされて輝いている光景に心を動かされた。当地の豊かな自然に感謝しつつ、収穫の秋を無事迎えることを心から願う。

(今回は6月13日掲載)